

マスクは顔の印象をどのように変えるのか

182G010 岩井 花音・182G056 中田 菜々子・182G079 山本 椎菜

問題

私たちの日常生活において、顔は重要な役割をもち、相手が誰であるかという人物に関する情報を伝えたり、内的な感情状態を伝えてくれる。特に、表情は、相手の感情の現在の変化を伝えるだけでなく、その人の内面的な性質を伝えることから、対人印象を形成するためにも重要である。しかしながら、2019年からの新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的な流行により、マスク着用が推奨され、今は、初対面の相手であっても顔のパーツについては目元しか見る事ができない。では、マスクをつけることによって顔の印象はどのように変化するのだろうか。

宮崎・伊藤・河原 (2014) はマスクを着用することが顔の魅力にどのような効果を及ぼすかを研究した。彼らは、予め魅力度を計測し、魅力的な顔、平均的な顔、魅力的でない顔の画像をそれぞれ22枚用意し、マスクを着用した顔画像とノートで目元より下を隠した顔画像も用意して魅力度を測定した。その結果、魅力度の低い顔はマスクをつけても魅力の評定値に変化はないが、ノートで顔を隠すと魅力度が上がった。そして魅力度の高い顔は、マスク着用とノートの両方で魅力度が低下することが明らかになった。

しかしながら、宮崎他が研究を行った2014年に比べ、現在はマスク着用についての受け止め方は大きく変化したのではないだろうか？さまざまなデザインのマスクが登場しており、昔はあまり良い印象がなかった黒いマスクも、現在は着用している人の姿を多く見かける。そこで、本研究では、白や黒のマスクを着用することで、顔の印象がどのように変化するかを検討することとした。

方法

参加者 大学生37名が参加した。内5名は記入に不備があったため、実際の参加者は32名であった。

刺激 This Person Does Not Exist (<https://thispersondoesnotexist.com/>) から実在しない5名の人物の顔画像を収集し、CGモデルで作成したサージカルマスク画像を適用した。マスク条件は、マスクなし、白マスク、黒マスクの3条件とした (Figure 1)。

手続き 実験には質問紙を使用した。表情と魅力度の関係性の研究を行った伊師・行場・蒲池 (2003) お

よび伊師 (2011) を参考に、顔からの印象に関する4因子 (活力性、柔和性、美感性、支配性) に基づき、「消極的なー積極的な」、「つめたいーあたたかい」、「品のないー品のある」、「弱々しいー力強い」に加えて「魅力的でないー魅力的な」の5つの評定尺度を用いて、参加者に刺激顔に対する印象評定を行ってもらった。

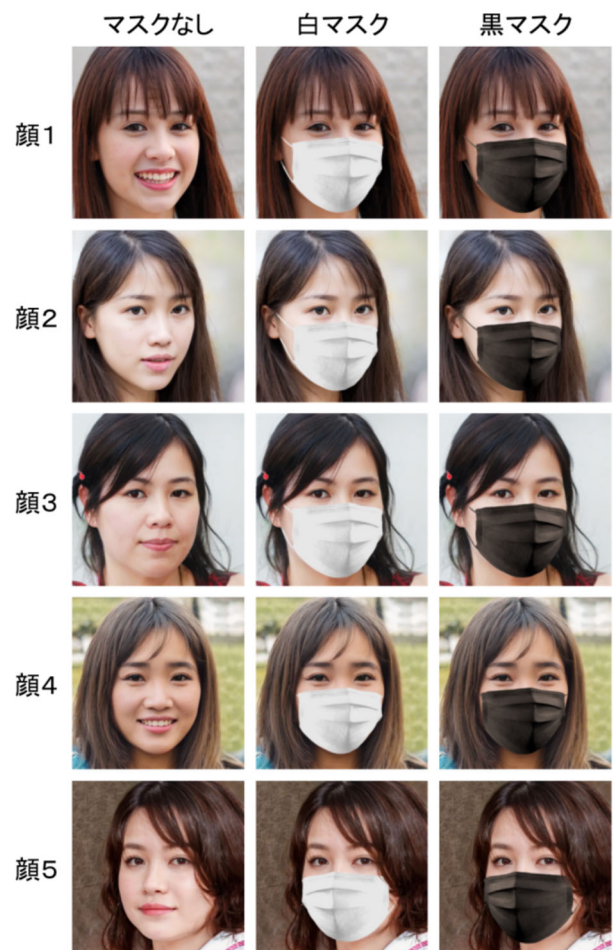


Figure 1. CGモデルで作成した実験刺激。

結果

参加者が質問紙で回答した5つの評定尺度について、それぞれマスク条件 (3水準: マスクなし、白マスク、黒マスク) × 顔 (5水準) の2要因分散分析を行った。以下、統計値は省略するが、5%以下の水準で有意な主効果および交互作用について記述する。なお交互作用については、単純主効果の検定およびRyan法による多重比較検定を下位検定として行った。

積極的 マスクの主効果が有意で、なし > 白 > 黒の順であった。顔の主効果も有意で、顔4 ≒ 顔1 > 顔5

≒顔3 > 顔2の順であった。交互作用は有意ではなかった (Figure 2)。

あたたかい マスクの主効果が有意で、なし > 白 > 黒の順であった。顔の主効果も有意で、顔4 ≒ 顔1 > 顔5 ≒ 顔3 > 顔2の順であった。交互作用は有意ではなかった (Figure 3)。

品のある マスクの主効果が有意で、なし ≒ 白 > 黒であった。顔の主効果も有意で、顔2 ≒ 顔5 ≒ 顔1 ≒ 顔4 > 顔3 (さらに、顔2 > 顔4) であった。交互作用は有意ではなかった (Figure 4)。

力強い マスクの主効果が有意で、なし ≒ 黒 > 白の順であった。顔の主効果も有意で、顔5 ≒ 顔3 ≒ 顔4 ≒ 顔1 ≒ 顔2 (ただし、顔5 > 顔2) であった。交互作用も有意であり、下位検定の結果、顔2では、黒 > 白 ≒ なしの順、顔3では、なし ≒ 黒 ≒ 白 (ただし、なし > 白)、顔5では、なし ≒ 黒 > 白の順であることがわかった (Figure 5)。

魅力的 マスクの主効果が有意で、なし ≒ 白 > 黒であった。顔の主効果も有意で、顔5 ≒ 顔4 ≒ 顔1 ≒ 顔2 > 顔3の順であった。交互作用も有意であり、下位検定の結果、顔1と顔5では、なし ≒ 白 > 黒の順、顔2と顔4では、なし ≒ 白 ≒ 黒 (ただし、なし > 黒) であることがわかった (Figure 6)。

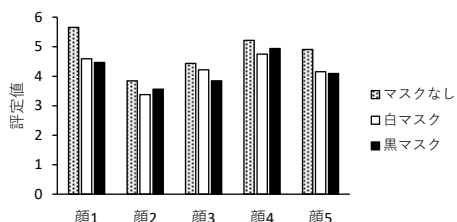


Figure 2. 「積極的」の印象評定結果

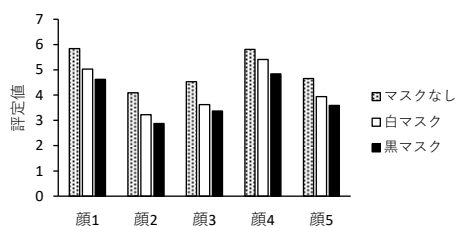


Figure 3. 「あたたかい」の印象評定結果

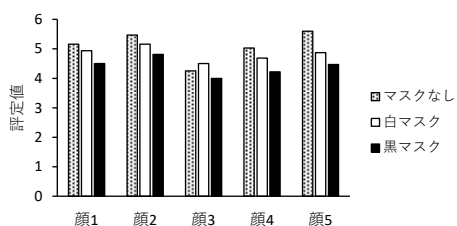


Figure 4. 「品のある」の印象評定結果

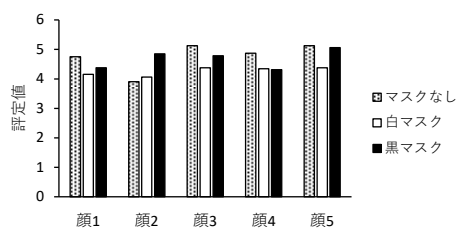


Figure 5. 「力強い」の印象評定結果

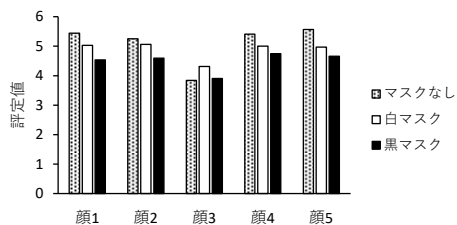


Figure 6. 「魅力的」の印象評定結果

考察

本実験の結果、「積極的」な印象については、マスクなしが最も積極的で、笑顔 (顔1, 4) も積極的な印象を与えることがわかった。「あたたかい」については、マスクなしが最もあたたかく、黒マスクは逆に冷たい印象を与えていた、また、笑顔はとてもあたたかい印象を与えていた、「品のある」については、黒マスクが品のない印象を与えることがわかった。「力強い」については、白マスクは弱そうに見えることがわかった。また、ほとんどの顔ではマスクなしが力強く見えるが、もともと弱く見える顔 (顔2) では、黒マスクが力強い印象を与えていた。さらに、笑顔も力強い印象を与えていた。「魅力的」では、マスクなしが魅力的で、マスクは魅力度を低下させていた。特に黒マスクは確実に魅力度を低下させることがわかった。また、相対的に魅力度の低い顔 (顔3) では、マスクの効果がなく、宮崎他 (2014) が見出した傾向が再確認された。

研究を通して、笑顔は、積極的で、あたたかく、力強くもあって、魅力的な印象をもたらすことがわかった。人々がマスクを外して、笑顔を交わすことが出来るようになる日常が早く戻ってくることが待たれる。

引用文献

伊師 華江 (2011). 表情顔の魅力評価に関わる心理的要因 知能と情報 (日本知能情報ファジィ学会誌), 23, 211-217.

伊師 華江・行場 次郎・蒲池 みゆき (2003). 笑顔強度と印象の関係性の分析 日本顔学会誌, 3(2), 5-11.

宮崎 由樹・伊藤 史織・河原 純一郎 (2014). 顔の魅力に及ぼす衛生マスクの効果 日本心理学会第78回大会発表論文集, 610.